

三木山森林公園のコバノミツバツツジが市の天然記念物に指定されました

公園内の北東部に位置する「ツツジ尾根」付近に、コバノミツバツツジがまとまって生育している地域が約2.11haあり、このうち高木の伐採等の陽の当たる環境整備を進めた区域の0.92haでは、群生した約2,500株のコバノミツバツツジが春に開花し、大変美しい景観を呈しています。

本年4月に、このコバノミツバツツジ群落が、**植物群落として三木市初の、市指定文化財(指定文化財の種類別:天然記念物)指定**を受けました。



【コバノミツバツツジの花】



【三木山森林公園のコバノミツバツツジ群落】

コバノミツバツツジについて

本州西部、四国及び九州北部に広く分布し、4月の初め頃に、多数の桃色の花を一斉に付ける、ツツジ科・ツツジ属の夏緑低木です。

近年、アカマツ林の衰退、植生遷移等により、かつてコバノミツバツツジが群生していた地域においても急激に減少しており、『兵庫県版レッドデータブック2020(植物・植物群落)』においても、その貴重性が評価されています。

天然記念物指定を記念して

兵庫県立大学

名誉教授 **服部 保**



コバノミツバツツジは、絶滅の危機段階までには至っていないものの、近年、急激に減少しており、兵庫県の天然記念物に指定されている広田神社(西宮市)のコバノミツバツツジ群落のように、一面に咲き誇る大群落を見ることは極めてまれと言えます。

県立三木山森林公園では、平成5年5月の開園以来、「三木山森林公園基本計画」の「基本理念」に基づき、「人と森林(もり)との共生」をテーマとして、長期的視点に立った多様な里山林の整備、生物多様性の保全・再生活動等に取り組まれてきました。

その結果、生物多様性に富んだ環境が復元され、多種の動植物が生息・生育し、『兵庫県版レッドリスト』において貴重性が評価された種類も確認されています。

このように、県立三木山森林公園のコバノミツバツツジ群落の保全に当たっては、他の動植物も含めた生物多様性の保全や減災などの視点も加わっているため、他地域における見本となるものであり、その意味においても、この度、県立三木山森林公園のコバノミツバツツジ群落が市の天然記念物に指定されたことは大きな意義があるものと考えます。

今後とも、県立三木山森林公園におかれては、地域の里地・里山の復元を目指し、森林・草原・水辺環境の維持・整備を通じ、コバノミツバツツジ群落はもとより、多様な生物が生きる場所づくりをさらに進めていただきたいと思います。

【プロフィール】

1948年大阪市生まれ
神戸大学大学院自然科学研究科(博士課程)修了
姫路工業大学自然・環境科学研究所教授を経て、
2004年に兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授に就任
2013年兵庫県立大学 名誉教授
2017年兵庫県立南但馬自然学校学長 現在に至る

村尾育英会学術奨励賞(1989年)
植生学会学会賞(2008年)
兵庫県科学賞(2012年)
兵庫県環境功労者賞(2018年)
環境省地域環境保全功労者表彰(2020年)
河川功労者表彰(2023年)
専門は植物保全、資源保全学、植生学、植物生態学、保全生態学、民俗植生学。里山の生物多様性保全と里山の再生に関する研究等

【主な著作】

万葉植物の歌鑑賞事典(共著)(2023)
鎮守の森の過去・現在・未来(共著)(2023)
図説日本の植生(共著)(2017)
照葉樹林(単著)(2014)
環境と植生30講(単著)(2014)
生態学からみた里やまの自然と保護(共著)(2005)
植物群落モニタリングのすすめ(共著)(2005)
植生管理学(共著)(2005)
ふしぎの博物誌(共著)(2003)
外来種ハンドブック(共著)(2002)
保全と復元の生態学(共著)(2002)
現代雑木林事典(共著)(2001)
生態学から見た身近な植物群落の保護(共著)(2001)
新版自然保護ハンドブック(共著)(1998)

県立三木山森林公園は、開園30周年を迎えました



【上池のスイレン(春)】



【アメリカフウの並木(夏)】



【アメリカフウの並木(秋)】



【中の島のスキクリ払い後(冬)】

開園から30年間のあゆみ

- 昭和63年 公園の基盤整備を開始
 - 平成3年度 森の研修館・森の小劇場、池・広場等を整備
 - 平成4年度 森の文化館等を整備
 - 平成5年度 **開園(5月23日)**
(以降、公園の大部分を占める森林を「里山林」として管理)
 - 平成6年度 茶室・森のクラフト館等を整備
 - 平成21年度 「三木山サポーター」(ボランティア)を立ち上げ、自然環境保全活動等を共同で実施
 - 平成25年度 ボランティアの協力を得て、公園内で約2,000種類の動植物の生息調査を実施
 - 平成28年度 (株)神戸製鋼所が「KOBELCOの森」を開設(約5ヘクタール)し、森林整備を開始
 - 平成30年度 日立建機(株)播州工場が「KoCoroのMori」を開設(約2ヘクタール)し、森林整備を開始
 - 令和5年度 公園内の「**コバノミツバツツジ群落**」が、植物群落として三木市初の**市指定文化財(天然記念物)**指定を受ける(4月21日)
- 開園30周年(5月23日)**

【お問い合わせ先】

兵庫県立三木山森林公園(TEL 0794-83-6100)
兵庫県農林水産部治山課(TEL 078-341-7711(代表) 内線3396・4219)

兵庫県知事

齋藤 元彦



公益社団法人 ひょうご農林機構

理事長 寺尾 俊弘



兵庫県立三木山森林公園が開園30周年の節目を迎えました。

平成5年の開園以降、年間約60万人の来園者が訪れるなど、多くの方々に親しまれてきました。公園の管理運営にご尽力いただいている公益社団法人ひょうご農林機構をはじめ、関係団体やボランティア、地域の皆さまに心から感謝申し上げます。

さて、三木山森林公園では、長期的な視点のもとで、里山林の整備、生物多様性の保全・再生活動等を行ってきました。平成27年には、環境省が推進する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選ばれるなど、様々な動植物が生息・生育する豊かな環境が形成されています。多くのサポーターや企業の協力を得ながら進めてきた森づくりは、SDGsを实践するモデルといえるでしょう。

また、コロナ禍を経て、豊かな自然や里山の価値があらためて見直されています。当公園では、火おこしや食器づくり、木工教室や草木染めの体験など、四季折々の自然のなかで、森林の大切さを体感し、ふれあいを深めるための取組を進めてきました。

これからも、人と森林がふれあい、共生する場として、より多くの方々に親しんでいただけるよう取り組んでまいります。次の10年、20年に向けて、ともに力を合わせてまいりましょう。

兵庫県立三木山森林公園は、市街地に隣接した自然豊かな森林公園として兵庫県により整備され、平成5年の開園から30周年を迎えました。

当機構は、開園時に、前身である社団法人兵庫県造林緑化公社が業務を受託して以来、現在まで公園の管理運営を行っております。

この間、来園者が森の中でゆっくりくつろげる安全・安心な施設管理はもとより、希少なコバノミツバツツジ群落の維持や森林(もり)の若返り等に向けた森林管理に取り組むとともに、チョウの森・トンボ公園の整備等を進め、動植物の多様性の保全・再生にも努めてきました。

また、森林(もり)とのふれあいを楽しんでいただけるよう、文化活動や環境学習ボランティアなどの「三木山サポーター」の協力も得て、豊かな緑の中での演奏会・茶会、植物・昆虫・野鳥等の観察会、企業による森づくりなどを実施してきました。

今後も、県民の皆様が四季折々の森林(もり)を楽しめる身近な里山を目指し、「三木山サポーター」など関係者の方々とより一層連携し、魅力ある公園づくりに取り組んで参ります。

三木山森林公園の森づくりについて



三木山森林公園では、自然環境の保全の程度等に応じて、5つの保全ゾーンを設定し、それぞれ目標とする景観、多様な動植物の保全など、5か年の「森林づくり施業計画」に基づき、下草刈や不要な木の伐採等の森林整備を行っています。

I 保全ゾーン

園内の多様な種、特に貴重な種の生息環境の保全を優先し、階層構造が発達した森林として、特に施業を行わず維持していく区域



II 準保全ゾーン

「保全ゾーン」と「利活用ゾーン」との緩衝区域として、また多様な動植物の生息域として、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、アカマツ林などの様々な森林が存在する区域



III 利活用ゾーン

コバノミツバツツジの花やモミジの紅葉等により、来園者が森林の四季にふれあうための空間づくりや、イベントを通じての森林づくりの場としての体験施業を行う区域



IV 草原・水源ゾーン

ススキ・チガヤの草原及び湿地や池沼植物の群落など、人里で失われた草原等の景観を復元することで、多様な草原性の昆虫や鳥、水生動植物の定着を図る区域



V 林縁育成ゾーン

公園の周縁部において、周辺地域に影響を及ぼさないように草刈や危険木の除去等を行い管理する区域